



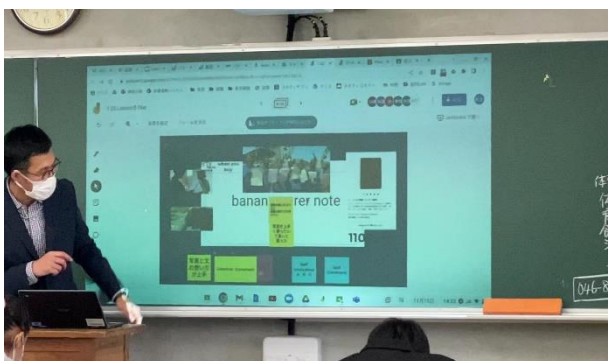
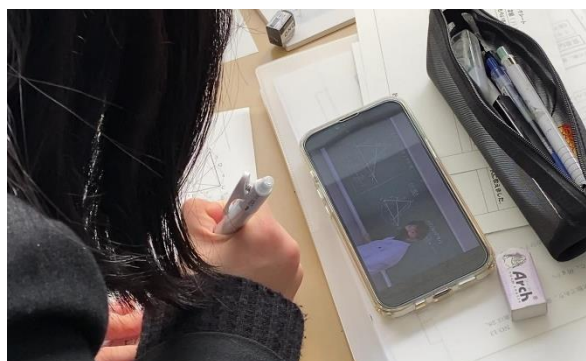
神奈川県立逗子葉山高等学校

県立高校指定事業 教育課程研究開発校（学習評価）

新学習指導要領における「新たな学習評価」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導と学習評価の充実を目指し、令和4年度から3年間にわたる取組に着手した。学校は「挑戦できる居場所」であることをコンセプトに、生徒が主体的に学ぶ支援を行い、「指導と評価の一体化」を意識した授業研究を進めている。

◆令和4年11月15日（火）公開研究授業・研究協議



最初ひいた時に比べて、最後の授業の時の音は、雑音が少なくてスラスラと流れるような音になっていた。特に開放弦の音がすごくキレイになっていた。中学校の時ぶりのアンサンブルで、今回はみんな初めてバイオリンをやったので、合わせるのすごく大変だったけど、アドバイスをしあいながら練習をして、発表まですることができて楽しかった。班でやる活動は音楽だけではないので、今回沢山コミュニケーションをとれたことを、ほかの教科にもつなげていきたいと思った。最初は全然上手くひけず、あきらめそうになったけど、最後まで練習したらキレイにひけるようになったので、何ごともあきらめないことが大切だとあらためて思った。

（音楽Ⅱ「ヴァイオリンの音色を探求し、その響きを味わおう！」単元終了後の生徒の振り返りより）

◆家庭科 保育（3年自由選択）



◆逗子海岸清掃（6月）



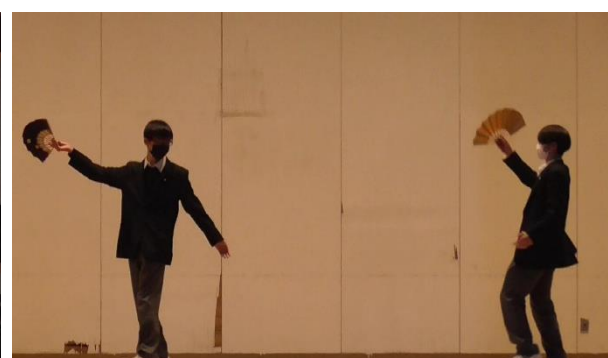
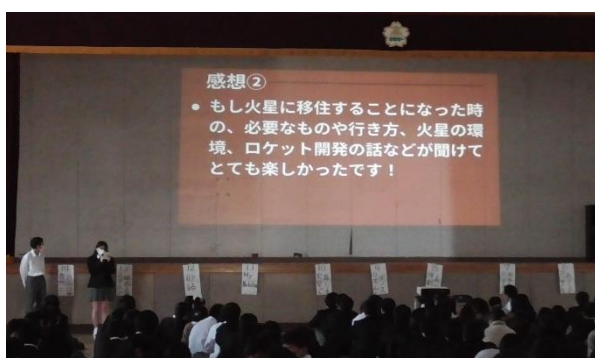
地域との連携、協働を通じて教育活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成している。近隣の桜山保育園との連携（家庭科の保育実習）をはじめ、有志生徒たちが「逗子海岸清掃（かながわ美化財団協力）」、「逗子グリーンライフフェス（市民交流センター連携）」など、多様な課外活動に積極的に参加している。参加生徒も年々増加し、地域社会の一員としての自覚と社会貢献への姿勢を身に付けている。

「幅広い地域資源を活用した教育活動の推進」

特色ある教育活動の一つに「地域ワークショップ」がある。令和5年4月の逗葉高校と逗子高校の再編統合に係る新校設定計画の基本コンセプトの具現化であり、逗子高校が実践してきた地域連携事業をベースに、令和3年度より逗葉高校が「総合的な探究の時間（1年）」の中で引き継いでいる。生徒は、この探究的な学びの成果を校内や地域の文化的行事における発表や展示等に繋げ、主体的に学び、社会にかかわる力を育み、自己成長の機会としている。

◆地域在住の専門家たちによる魅力的な14講座（令和4年度）

子ども大好き！集まれ～♪	演劇的な表現ワークショップ リズムとダンス
やってみよう、トレイルランニング！	火星で暮らす
上手い下手を超えるアート制作	Jpopで楽しく表現する My Nichibu
星を通じて自分を知り、もっと自分を好きになる！「スターダイアログプログラム」	砂絵講座
コロナ対策♪心と体で歌おう♪LET'S SING FREE STYLE MUSIC♪	スマートフォンを用いた映画表現ワークショップ
コンサートを作ろう！	繋がりを知ることで見えてくる自然と自分自身
点字を学んでユニバーサルデザイン絵本を作ろう！	障害をお洒落に解決！リ・デザインワークショップ 困り事を解決するデザインとは？



◆地域在住の専門家の指導により、生徒たちが主体的に策定に関わった「新校校歌」



◆校歌制作に関わった生徒2名の声

私は校歌制作に携わり、仲間と共に一から何かを創り上げる楽しさを学びました。今まで聴くばかりだった音楽を一から作るというのは、本当に務まるのかという不安も大きくありました。それでも仲間と一緒に話し合いを重ね、本校の良さや、逗子高校・逗葉高校らしさが伝わるような素敵な校歌が完成したと思っています。校歌制作で、私は曲作りの流れやコツ、大変さと楽しさを知り、より音楽を好きになることができました。今後、この校歌を歌っていくことがとても楽しみです。

私は、今回の校歌作成で非常に多くの事を学びました。このワーキングに参加する前は音楽の知識がなかったため、参加することにとっても不安を感じていました。そんな中で杉田篤史さんと共に校歌を作成していく過程で、「音楽は楽しい」ということに気付いていきました。

作詞をするにあたっては、杉田さんから「歌詞は情景が思い浮かぶような言葉を選ぶということが大切」と教わりました。私は新校の校歌は100年後の後輩たちに向けた思いと、逗子葉山高校の「挑戦」をしていくという大きなテーマを意識し、この歌が何年も歌い継がれていくことを考えて書きました。

メロディーの作成については分からないことばかりでしたが、従来の「校歌らしい伝統的な特徴」か「ポップスのような新しい曲調か」が大きなポイントになったと感じました。出来上がった校歌は、今風な曲調となり、それはまさに「挑戦」だったのでないかと思います。完成した校歌は「逗子潮風芸術祭2022」で披露することになり、とても緊張しましたが、自分たちで作りに上げてきた校歌なので堂々と舞台上で歌うことができました。

校歌作成が終わったいま、杉田さんが校歌作成の際に弾いてくれたギターに憧れ、自分も弾いてみたいと思いギターを始めました。いつかこの新校の校歌を自分自身で奏でることができるよう、挑戦したいです。